

令和7年度 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	鳥屋野運動公園馬場		
管理者名	新潟市馬術協会	指定期間	令和6年4月1日 ～ 令和11年3月31日
担当課	中央区地域課		
所在地	中央区女池南3丁目6番5号		
根拠法令	スポーツ基本法		
設置条例	新潟市都市公園条例		
施設概要	敷地面積 6,467㎡、延床面積 425㎡ 建物構造 木造 主な施設内容（構成施設の内容） 厩舎（平屋建） 282㎡ 管理棟（平屋建） 43㎡ クラブハウス（平屋建） 100㎡		

施設設置目的
スポーツの普及振興を図り、市民の心身の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与することを目的として、体育施設を設置する。
管理・運営に関する基本理念、方針等
(1)新潟市都市公園条例に基づき、スポーツの普及および振興を図り市民の心身の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与する管理運営を行うこと。 (2)公の施設管理運営の責務を認識して管理運営を行うとともに、住民サービスの向上や平等利用を確保すること。 (3)利用者の意見及び要望を管理運営に反映させること。 (4)利用者に対し、安全で快適な環境を提供すること。 (5)新潟市個人情報保護条例に基づき、個人情報の保護を徹底するとともに、業務上知り得た情報について守秘義務を遵守すること。 (6)効率的かつ効果的な管理運営を行い経費の削減に努めること。 (7)法令を遵守し施設の管理運営を適切に行うこと。 (8)指定管理者制度を理解し、実践すること。

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価	評価コメント
市 民	広報の充実	ホームページに施設の情報及びブログを月1回以上更新	インスタグラムの年44回更新	A	積極的な広報活動により、利用者数の増加に繋がったことを評価している。
	基準利用者数の達成	利用者数年間9,000人以上	年間利用者11,569人	A	目標および昨年度の実績を上回った。
	苦情・要望に対する対応	苦情・要望には14日以内に回答	苦情・要望に迅速に対応	B	
財 務	利用者1人あたりのコスト削減額	利用者1人あたりコスト(人件費及び工事費を除く)を160円以下	コスト一人当たり140円	B	
業 務	日常連絡の適切さ	各種報告書の提出期限厳守及び業務基準書に定められた報告内容の適切さ	連絡等は随時、適切に行われた	B	
	改善勧告時の対応の迅速さ・適切さ	改善内容に応じて軽易なもの即日、時間を要するもの1週間以内に改善対応	該当なし	B	
	環境に配慮した管理運営	省エネ及び環境に配慮した取り組みの実施	馬糞を肥料として、社会福祉法人等で再利用した。	B	
	安全責任者の配置と安全確保体制の確立	防災訓練年2回以上実施	防災管理計画を設定し、訓練を2回実施	B	
	当該施設の管理に係る関係法令の遵守	コンプライアンス研修年1回以上実施	パワーハラスメント、セクシャルハラスメント研修を年一回実施	B	
	事件・事故発生時の対応の適切さ	補償を伴う事故発生件数0件	該当なし	B	
	業務基準書等に定める事項の遵守	その他業務基準書等に定める事項の遵守	残業時間を減らすため、職場改善計画を策定し勤務時間をずらしての勤務体制を実施し、勤務者数を2名体制から3名に増員し対応した	B	

【評価基準】

A:要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている

B:要求水準(評価指標)が達成されている

C:要求水準(評価指標)が達成されていない

※評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。
(評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていなければ「A評価」とはなりませんので、ご注意ください。)

指 定 管 理 者 記 載 欄 (アピ ール した い 事 項 ・ 未 達 成 項 目 へ の 改 善 策 等)

・馬匹の購入や、維持管理費用等が高額になってしまうといわれる馬術というスポーツを、全国的に見て安価な価格設定で新潟市民のために提供をしている
・青少年育成の取り組みとして、新潟乗馬スポーツ少年団(小学校4年生から高校3年生まで)に、30人程度の団員が所属し、ほぼ毎日の活動を実施している。
・市民に対するの広報・告知活動強化の取り組みとして、新潟大学や、JRA新潟競馬場と連携し、市民向け馬術大会を実施している、また、市民向けの大会を開催し、新潟市民の福利厚生を意識した活動をしている。

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 (所 見)

馬場施設という特性上、気候や環境に維持管理費が左右される中、軽微な修繕等は職員自身で行うなどして運営されている点を評価します。また補償を伴う事故発生0件と、安全な環境確保にも努めていただきました。
積極的な広報活動により利用者数も増加しています。引き続き、広報活動や他団体と連携をすることで、より市民が馬や馬術を身近に感じられるような取り組みに期待します。